

平成25年度
「ほっかいどう遺産WAON」
助成活動報告



平成26年4月30日
NPO法人北海道遺産協議会

平成25年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計10件350万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団	そらちの炭鉱遺産と小樽・室蘭とを結ぶ「炭鉄港2013」キャンペーン	400,000
2	サケの文化	北海道各地 (石狩市)	一般社団法人石狩観光協会	食育イベント「石狩鍋から学ぶ食と歴史」	300,000
3	札幌苗穂地区の工場・記念館群	札幌市	苗穂駅周辺まちづくり協議会	「苗穂カフェ」をガイドセンターとした北海道遺産巡りルートの設定とガイドパンフの作成	300,000
4	北限のブナ林	黒松内町	黒松内町ブナセンター	「歌オブナ林」を伐採の危機から救っていただいた館脇操先生の功績の展示活用事業	300,000
5	モール温泉	音更町など	十勝川温泉旅館協同組合	学術的・科学的な研究に基づく植物性十勝川モール温泉「新十勝川温泉湯けむり紀行」のPR宣伝広告用ツールの作成	400,000
6	野付半島と打瀬舟	標津町	標津町歴史文化研究会	会津藩蝦夷地御領分標津元陣屋創建150年事業	400,000
7	森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」	遠軽町	夢里塾	北海道遺産「森林鉄道蒸気機関車雨宮21号」活用プロジェクト	300,000
8	アイヌ語地名、アイヌ文様、アイヌ口承文芸	全道各地 (平取町)	二風谷民芸組合	アイヌ伝統工芸に関するパンフレット制作等による広報活動	400,000
9	アイヌ語地名、アイヌ文様、アイヌ口承文芸	全道各地 (白老町)	アイヌ文化遺産活用地域活性化協議会(白老町、白老観光協会、白老町商工会、アイヌ民族博物館)	「イランカラプテ(こんにちは)」からはじめよう！白老町「イランカラプテ」キャンペーン	300,000
10	道央圏の北海道遺産	道央圏	みちのく会	北海道遺産体感ツアー	400,000

2.食育イベント「石狩鍋から学ぶ食と歴史」

- 実施主体：一般社団法人石狩観光協会（石狩市）
- 実施団体URL：<http://www.ishikari-kankou.net/>
（石狩観光協会HP）
- 助成額：300,000円

—活動内容—

- ・旧石狩市内の小学生を対象に、石狩鍋やサケ文化についての歴史講義及び石狩鍋の調理実習を体験していただきました。
- ・座学、調理実習、実食を通して石狩とサケの歴史、食や生命の大切さを学ぶとともに、未来を担う子供たちへ本市の伝統あるサケ文化の普及伝承を図りました。



遺産の名称：
「サケの文化」
北海道各地（石狩市）



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、平成21年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

3. 「苗穂カフェ」をガイドセンターとした北海道遺産巡りルートの設定とガイドパンフの作成

- 実施主体：苗穂駅周辺まちづくり協議会
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/NaeboCafe>
(苗穂駅周辺まちづくり協議会 苗穂カフェFBページ)
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- ・当協議会の活動拠点でもある「苗穂カフェ」が昨年7月にオープンしたことから、そこを情報発信拠点・苗穂地区のガイドセンターとして機能強化するため、北海道遺産に選定された「苗穂地区の工場・記念館群」と連携したフットパス（発見の小路）の設定と、そのガイドパンフを作成しました。



遺産の名称：

「苗穂地区工場・記念館群」
(札幌市)



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。

4. 「歌オブナ林」を伐採の危機から救っていただいた館脇操先生の功績の展示活用事業

- 実施主体：黒松内町ブナセンター（黒松内町）
- 実施団体URL：<http://www.host.or.jp/user/bunacent/>
（黒松内町ブナセンターHP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- ・北海道遺産に選定されている北限のブナ林を代表とする「歌オブナ林」が国の天然記念物に指定された後の2度の伐採の危機の1度目の際に、歌オブナ林を守っていただいた北大の故館脇操氏の業績にフォーカスを当て、今一度、氏の功績を世に示す事業。故辻井達一氏が大学時代の恩師である館脇操氏の遺品、資料等を同門の方々から収集して下さった約200点の資料も活用。館脇先生の思い出話の会、市民劇「北のヤシの木」の上映、館脇先生の功績に関する展示作成、などを実施しました。



遺産の名称：
「北限のブナ林」
（黒松内町）



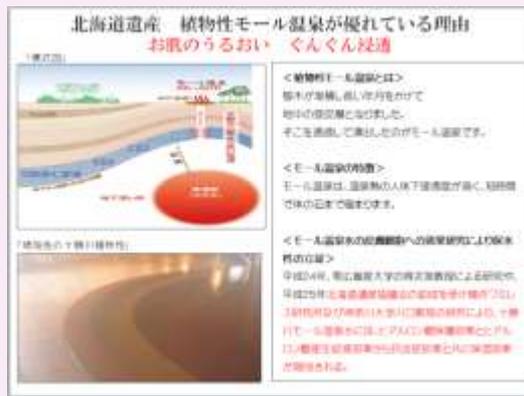
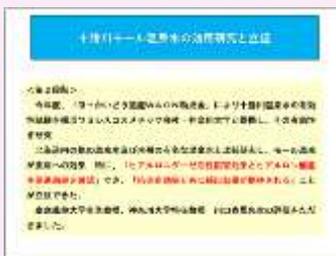
ブナは温帯を代表する樹種で、北海道では渡島半島だけに分布する。黒松内町はその北限で、太平洋側の長万部と日本海側の寿都を結ぶ黒松内低地帯が境界線。黒松内町では、自然の恵みを伝える自然学校の開設など、ブナ林が育む豊かな生物多様性を活かした取り組みが進められている。また、渡島の七飯町には幕末に在住したドイツ人ガルトナーの植林したブナ人工林が残る。

5. 学術的・科学的な研究に基づく植物性十勝川モール温泉「新十勝川温泉湯けむり紀行」のPR宣伝広告用ツールの作成

- 実施主体：十勝川温泉旅館協同組合（音更町）
- 実施団体URL：<http://tokachigawaonsen.jimdo.com/>
（十勝川温泉旅館協同組合HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

1. 十勝川モール温泉の研究開発
モール温泉の皮膚への効果を研究・立証する試みを行った。
2. 研究開発成果の蓄積と共同宣伝広告用ツールの作成
研究した成果を「十勝川モール温泉の噴出紀行」や同温泉ちらし「新湯けむり紀行」を作成し、十勝川温泉観光協会と連携し、全国・全道にPR。



遺産の名称：
「モール温泉」
（音更町など）



モール温泉は、泥炭を通して湧出するもので独特の黒っぽい湯が特徴。日本では十勝に代表して見られるほか、石狩平野や豊富町でも湧出している。呼び名のモールは「Moor」のドイツ読みになむもので、泥炭のことを意味する。主成分は植物性腐食質で、鉱物成分より植物成分が多いのが他の温泉との違い。また、熱源は地熱に加えて、地下での植物の堆積物による発酵熱と考えられている。

6. 会津藩蝦夷地御領分標津元陣屋創建150年事業

- 実施主体：標津町歴史文化研究会（標津町）
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/shibetsurekishi>
（標津町歴史文化研究会 F B ページ）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

今回の活動では、会津藩の北辺防衛拠点となった陣屋が野付半島基部に位置する標津に創建されて150年目を迎えたことを機に、この歴史の具体的証拠として現在も野付半島道路脇に残されている、標津町指定文化財「会津藩氏の墓」前に当会で掲げた会津藩旗を、周辺地域にまで拡充して設置し、北海道遺産野付半島がもつ歴史的価値向上に資すると共に、4名の専門家を招き、当時の歴史をいまに伝える「標津番屋屏風」にちなんだシンポジウムを開催し、地域の歴史に光をあてた。



遺産の名称：
「野付半島と打瀬舟」
（標津町、別海町）



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

7. 北海道遺産「森林鉄道蒸気機関車雨宮21号」活用プロジェクト

- 実施主体：夢里塾（遠軽町）
- 実施団体URL：<http://engaru.jp/>（遠軽町HP）
- 助成額：300,000円

—活動内容—

北海道遺産「森林鉄道蒸気機関車雨宮21号」と武利意森林鉄道（雨宮21号が製造された昭和3年から廃止される昭和33年まで運行）廃線跡などを活用し、「雨宮21号PR展」「フォトコンテスト」「案内板の設置」等の事業を実施した。



遺産の名称：
 「森林鉄道蒸気機関車
 『雨宮21号』」（遠軽町）



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。昭和3年、丸瀬布―武利意森林鉄道に配属され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが昭和33年に廃止。地元の強い要望で昭和51年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡され、町は“森林公園いこいの森”を建設、機関車を走らせた。森林鉄道蒸気機関車の動態保存は全国で唯一のもの。

8. アイヌ伝統工芸に関するパンフレット制作等による広報活動

- 実施主体：二風谷民芸組合（平取町）
- 実施団体URL：<http://www2.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/>
（平取町HP）
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

平取町が位置する沙流川流域では古くからアイヌ伝統工芸が盛んで、現在も二風谷地区を中心に継承されており、平成25年3月にアイヌ文様が施された「二風谷イタ」（盆）と、「二風谷アットゥシ」（樹木の内皮から作った糸による織物）が経済産業大臣によって伝統的工芸品に指定されました。未だ認知度が低いことから、工芸品を紹介するパンフレット制作等をもとに地元平取町や札幌圏・首都圏などでPR活動を行う。



遺産の名称：
「アイヌ語地名、アイヌ
文様、アイヌ口承文芸」
（北海道各地）



世界の各民族には、それぞれ独特の精神的意味合いを含めた「文様」がある。アイヌ文様の基本はモレウ（静か・曲がる：渦巻き文様の意）、アイウシ（とげ・つく：とげ文様の意）で、これらを組み合わせ、連続した線で結んでいく。その形状、図案や色彩は、印象深い美的価値を含んでおり、文化的にも秀逸なものとして近年、注目が高まっている。

9.「イランカラプテ(こんにちは)」からはじめよう！白老町「イランカラプテ」キャンペーン

- 実施主体：アイヌ民族博物館等（白老町）
- 実施団体URL：<http://www.ainu-museum.or.jp/>
（アイヌ民族博物館HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

「イランカラプテ」キャンペーンは、イランカラプテという言葉をおもてなしの言葉として位置づけ、多くの方たちにアイヌ文化への親近感を持ってもらいたい、という取り組み。

【キャンペーン内容】

1. お迎えの挨拶として、「イランカラプテ」を実施します。
2. 町内にキャンペーン看板を掲げ、しらおいポロトコタン及び大町商店街への動線を案内。



遺産の名称：
「アイヌ語地名、アイヌ文様、アイヌ口承文芸」
(北海道各地)



アイヌ民族が育んできた文化「口承文芸」は人から人へ、長い間、途切れることなく語り伝えられてきた。語り手の話を聞いて楽しみ、味わうことで伝えられてきたもので、英雄叙事詩、神謡、散文説話などがある。サコロベ、ユカラなどと呼ばれる英雄叙事詩は、短いメロディーを繰り返しながら、空を飛ぶなど超人的な行動も含まれる壮大なストーリー。

10. 北海道遺産めぐり日帰りバスツアー

- 実施主体：みちのく会（道央圏）
- 実施団体URL：<http://michinokukai.info/>（みちのく会 HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

1. アイヌ文化を学ぶツアー
二風谷アイヌ文化博物館を訪問。アイヌ文様の切り絵、コースターづくり、刺繍などを体験。
2. 開拓の村をたずねる
開拓の村での街並み見学、伝統遊具づくり、など。



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築
（時計台、豊平館、清華
亭など）」（札幌市）



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。